

四日市港管理組合議会ニューズ

Yokkaichi Port Authority Assembly

第75号（令和6年3月発行）

令和5年は、12月に第4回定例会が開催され、一般質問で各議員が下記のとおり管理組合執行部の見解を質しました。

主な質問・答弁要旨

東豊議員



主な質問項目
・四日市港の将来像実現に向けて

- 先般、姫路港を視察した際、現在、臨海部の国道が慢性的に渋滞している中、姫路港における円滑な物流確保に向け、新たな臨港道路の計画ルートがはっきりと示されており、港の将来図にとって欠かせないものであるとの説明を受けた。
四日市港の臨海部における新たな道路整備として、臨港道路霞4号線の南側延伸の具体化に向けた検討について、管理者の考えを聞きたい。
- 新名神高速道路が開通し、四日市港は陸海の結節機能が高まってきており、さらに令和8年度の東海環状自動車道西回りや中勢バイパスの開通等により、岐阜や県南部からの貨物の増加が見込まれる。また、物流の2024年問題への対応として、四日市港を活用してトラック輸送から海上輸送へ転換を図るモーダルシフトによる解決も期待されている。貨物量の増加に伴い、交通渋滞が悪化し、今後、産業交通・港湾交通の定時性がさらに低くなることが想定されるため、策定中の新たな四日市港長期構想では、臨港交通体系の南北軸強化の方針を示したところ。
霞4号幹線の南側延伸については、用地確保や環境対策、費用等の課題があるため、私から国土交通省に依頼し、国土交通省と管理組合が共同で事務局となる臨港道路の検討会を開始することとなった。この検討会での議論等も踏まえながら、港湾計画改訂作業の中で、国と連携しながら具体化に向け検討していきたい。
- 長期的な取組になるが、国と連携して、実現に向けて前に進めていただきたい。

樋口博己議員



主な質問項目
・環境に配慮した船舶へのインセンティブ制度について

- LNG船「いせ みらい」、LNGバンカリング船「かぐや」の入港状況や、環境負荷軽減の状況はどうか。
- 四日市港霞ヶ浦地区から衣浦港への石炭運搬船として就航している、LNGを燃料とする内航貨物船「いせ みらい」の令和4年度の入港回数は102回、試算では約167トンのCO₂削減効果があったと推測される。LNGバンカリング船「かぐや」の令和4年の入港回数は20数回、「かぐや」からLNGの供給を受けた船舶で試算すると、約1万9,500トンのCO₂削減効果があったと推測される。
- 令和6年度から、環境性能に優れた船舶入港へのインセンティブ制度の導入準備をしていると聞いている。環境性能に優れた船舶へ現在のインセンティブ制度の更なる周知や今後の新たな取組の状況は。
- 現在、LNG燃料船及びLNGバンカリング船に対し、伊勢湾及び三河湾の港における入港料を全額免除している。船社へのポートセールス等で制度の周知を図り、LNG燃料船の導入促進や四日市港の環境への取組をPRしている。
また、令和6年度からの更なる取組として、国際海事機関が定める船舶からの排気ガスに関する規制基準よりも更に環境性能に優れた船舶に対して、入港料の減免などのインセンティブを与える「ESIプログラム」への参加を検討しており、環境負荷の少ない船舶の入港促進や温室効果ガス削減等を図っていく。